

アイソトープ検査室

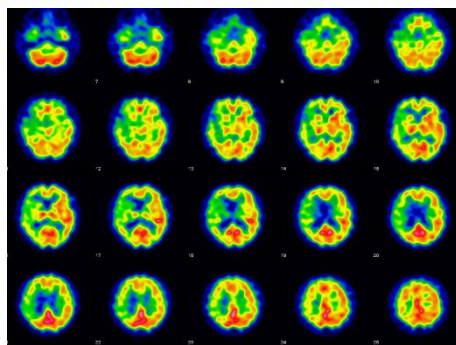


GE社製 SPECT NM830

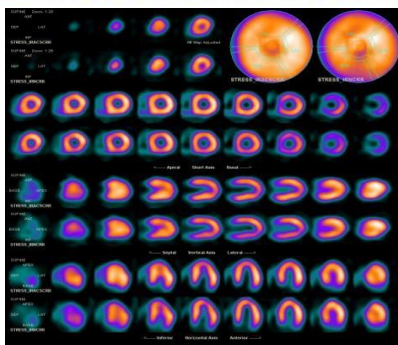
放射性医薬品を用いた検査です

放射性医薬品を投与して、体内の状態を調べる検査です。

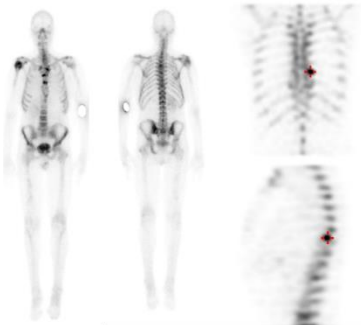
目的の部位にくすりが集まった様子を画像にすることで、脳や心筋の梗塞部位や骨病変の把握ができます。



脳血流シンチ



心筋シンチ



骨シンチ

RI検査とは

RI検査は、放射線を放出するアイソトープというくすりを使って体内の状態を調べる検査です。ガンマ線という放射線を出す放射性医薬品を静脈から注射して、検査用ベッドの上で横になっている間に、ガンマカメラで体内の様子を画像にします。ほとんどの場合、20～30分静かにしている間に検査は終了しますので、患者さんには苦痛の少ない検査です。

注意事項

検査の性質上、注射をしてから目的の臓器にくすりが集まるまで、数時間待っていただいたり、朝の絶食、服用中の薬の一時中止などが必要な場合があります。待ち時間を含めて2～3時間で終了する検査が多いのですが、注射をして1日または数日後にもう一度来院が必要な検査もあります。

検査目的

CTやMRIでは形(位置)や大きさを調べ、RI検査は、おもに臓器の働き具合(機能)を調べます。必要な検査を組み合わせで行い、具合の悪い部分の機能や形、大きさがわかります。その結果、治療方針を決めたり効果的な治療が行われているかを判断したりすることができるのです。RI検査は、放射性医薬品がどのような速さで、どこに、どれだけ集まってくるかを調べることで、病気の状態を形の異常が現れる前に診断できます。